



# ADRC Highlights

Vol.15 & 16

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

Page 1  
January 16, 2001

## ➤ アジア防災センターニューズレター新年号巻頭挨拶

所長 小川雄二郎



第3回アジア防災センター国際専門家会議(12月5~7日)

明けましておめでとうございます。世界の各地域において災害の低減に励んでおられるすべての方々に、アジア防災センターの21世紀最初のニューズレターをお届けいたします。

我々が生きて来た20世紀においては、我々はさまざまな自然災害に襲われ、多くの被害を受けつつも、それらの災害に立ち向かう努力をしてきました。特に20世紀最後の10年間は国際社会が協力して、自然災害の低減に努力してきたところです。

しかしながら、アジア地域の自然災害は地震・津波、火山災害のほか、地球規模の気候変動により洪水、台風(サイクロン)の大規模化など、21世紀にはより深刻な自然災害に直面する可能性予想されています。

アジア防災センターは1998年7月の設立以来、アジア地域の自然災害被害軽減・防止のために、アジア地域における防災情報センターとしての努力を果たしてまいりました。

昨年12月に開催されましたアジア防災センター国際専門家会議におきましても、アジア防災センターのメンバー各国も、アジア防災センターに対して積極的に防災関係情報

を提供し、それら情報の共有を進めることを約束していただいています。

アジア防災センターは、21世紀におきましてもアジア各国の災害情報・防災情報の収集を強化し、情報共有化を進めると共に、国際緊急援助機関など大規模災害時に利用可能な機関・資源をデータベース化し、各国の災害対応の迅速化を支援する努力を続けてまいりますので、関係各位におかれましては、なお一層のご支援をアジア防災センターに賜りますようお願いいたします。

## ➤ 20世紀の主な自然災害

アジア防災センターは、2000年7月に「20世紀アジア自然災害データブック」を発行しました(参照：[ADRC Highlights Vol. 7, ADRC ホームページ http://www.adrc.or.jp/databook/Index\\_JP.htm](http://www.adrc.or.jp/databook/Index_JP.htm))。

このデータブックはベルギーにあるルーベン・カトリック大学のCREDのEM-DATに登録された20世紀にアジアで起きた主な自然災害について収録しています。

このデータブックの統計データおよび人口統計(最新人口をCIA World Factbook 2000より抽出)などを利用して、ADRCのメンバー23国における20世紀の自然災害を死者数などの指標によってランク付けを行いました(疫病を除く)。

表1は、死者数による自然災害ワースト20を掲載しています。また表2では、各国での災害の影響を簡単に比較するために、災害死者数の人口比率による自然災害ワースト20をあげています。

表1には死者数が10万人を超える大規模災害が抽出されています。これらは主に中国(洪水、干ばつ)、インド(干ばつ)、さらにバングラデシュ(サイクロン)、日本(地震)などの国々で発生しています。

しかし表2から、ADRCメンバー国のうちこの100年間で人口比率において最も被害が大きかった災害は、1988年のアルメニアのSpitak地震であるといえます。また1949年のタジキスタンの地震と地すべりも最大級の災害でした。さらにバブアニューギニアは、1998年の津波災害を含みワースト20に3件の災害が掲がっています。死者数だけのデータでは見られなかったモンゴル、ウズベキスタンの地震もリストにのぼっています。

No	Country	DisType	Year	Killed
1	China, P Rep	Flood	1931	3,700,000
2	China, P Rep	Drought	1928	3,000,000
3	China, P Rep	Flood	1959	2,000,000
4	India	Drought	1942	1,500,000
5	India	Drought	1900	1,250,000
6	China, P Rep	Drought	1920	500,000
6	China, P Rep	Flood	1938	500,000
6	China, P Rep	Flood	1939	500,000
6	India	Drought	1965	500,000
6	India	Drought	1966	500,000
6	India	Drought	1967	500,000
12	Bangladesh	Cyclone	1970	300,000
13	China, P Rep	Earthquake	1976	242,000
14	China, P Rep	Earthquake	1927	200,000
15	China, P Rep	Earthquake	1920	180,000
16	Japan	Earthquake	1923	143,000
17	China, P Rep	Flood	1935	142,000
18	Bangladesh	Cyclone	1991	138,866
19	China, P Rep	Flood	1908	100,000
19	China, P Rep	Flood	1911	100,000
19	China, P Rep	Typhoon	1922	100,000

表1 死者数による自然災害ワースト20

表2 死者数の人口比率による自然災害ワースト20

No	Country	DisType	Year	Killed	Population (latest)	K/P (1/100%)
1	Soviet U. (Armenia)	Earthquake	1988	25,000	3,344,336	74.8
2	China, P Rep	Flood	1931	3,700,000	1,268,948,784	29.2
3	China, P Rep	Drought	1928	3,000,000	1,268,948,784	23.6
4	Bangladesh	Cyclone	1970	300,000	129,194,224	23.2
5	Soviet U. (Tajikistan)	Landslide	1949	12,000	6,440,732	18.6
6	China, P Rep	Flood	1959	2,000,000	1,268,948,784	15.8
7	India	Drought	1942	1,500,000	1,014,003,817	14.8
8	India	Drought	1900	1,250,000	1,014,003,817	12.3
9	Japan	Earthquake	1923	143,000	126,549,976	11.3
10	Bangladesh	Cyclone	1991	138,866	129,194,224	10.7
11	Papua New Guinea (PNG)	Earthquake	1951	3,000	4,926,984	6.1
12	PNG	Volcano	1951	3,000	4,926,984	6.1
13	Soviet U. (Tajikistan)	Earthquake	1949	3,500	6,440,732	5.4
14	India	Drought	1965	500,000	1,014,003,817	4.9
15	India	Drought	1966	500,000	1,014,003,817	4.9
16	India	Drought	1967	500,000	1,014,003,817	4.9
17	Soviet U (Uzbekistan)	Earthquake	1949	12,000	24,755,519	4.9
18	Bangladesh	Cyclone	1942	61,000	129,194,224	4.7
19	Mongolia	Earthquake	1957	1,200	2,650,952	4.5
20	PNG	Tsunami	1998	2,182	4,926,984	4.4

総登録データ数 2,738 件 (EM-DAT: ベルギー・ルーベンスカトリック大学 OFDA/CREED 国際災害データベースより ADRC メンバー国 1990-1999 のデータを抜粋)

ADRC はワースト 100 までの分析、さらに災害によってもたらされた被害総額による分析、被害額の対 GDP 比による分析も同様に行っています。これらの分析結果は、[ADRC のホームページ「ADRC イベント・出版物」](#)のページで公開されています。また、アジア全域の分析も近々公開の予定です。

(Masahiko Murata, Senior Researcher)

## ➤ Visiting Researcher 便り

ハイライト第 9 号に引き続き、スリランカから ADRC の Visiting Researcher として勤務している W.A. Chulananda Perera 氏が 12 月に行われた ADRC の第 3 回国際会議について報告します。

### □ ADRC 第 3 回国際会議に参加して

今回、私はスリランカ政府代表のひとりとして ADRC の第 3 回国際会議に出席しました。

会議を通じて、各国レベルにおける災害対策の現在の構造を常に再検討すること、さらにそのプロセスや仕組みを向上させていく新たな方法を模索していくことの必要性が非常に強調されていたように思います。これは、近年の研究で明らかになったように、われわれの地域における各国間の災害軽減に対する取り組みは大きなギャップがあるからだといえます。そうしたギャップを埋め、なくしていくための取り組みを適切に行う一方、ADRC は地域の各国とアドバイザー国同士が、各国がこれまでに成し遂げてきたこと、どのような将来的なプランを持っているか、またさまざまな災害からどのような教訓を得たかといった貴重な経験を共有していく場を提供しました。さらに、会議は災害対策分野の緊急性や最新の対応法を理解する場ともなりました。

(W.A.Chulananda Perera, ADRC visiting researcher)

## ➤ アジアにおける最新災害情報

### □ モンゴルの異常寒害“Dzud”

1999 年から 2000 年にかけてはモンゴルの牧畜にとって過去 30 年間で最悪の冬となりました。この災害はモンゴル語で Dzud と呼ばれ、1999 年の夏が異常な乾燥気候であったことに引き続き、冬が始まって以来非常に厳しい天候が続いたことによってもたらされました。

国家緊急事態委員会によると、99 年から 2000 年にかけての Dzud によって 4 名が亡くなり、被災地域のおよそ 240 万頭の家畜が死にました。13 の被災地域には、モンゴルの全人口の 45% にあたる 110 万人が暮らしています。この Dzud 災害による被害総額は約 7,830 万米ドルに及んでおり、牧畜を営む 2,369 家族が所有するすべての家畜を失いました。

二国間または IFRC などの国際機関を通じて物資援助が行われており、国連 OCHA に報告されている国際社会からの支援総額はおよそ 1,690 万ドルに上っています。

2000 年の夏と秋の間には、モンゴルの田園地帯の 60% 以上が干ばつや干ばつに等しい気候に悩まされました。8 月まで無降雨だったため、牧草がほとんど育たず、多くの家畜が越冬のために必要な栄養摂取ができませんでした。さらに中部及び西部の多くの地域において、牧草や作物がねずみやバッタなどの害虫によってひどく荒らされ、栄養摂取の不足や、さらには冬用の干草やかいばなどの飼料不足が助長されました。

モンゴル外務省は Bayankhongor と Gobi-Altai などの地域の多くで豪雪による被害が出ていると報告しています。これらの地域の平均気温は摂氏マイナス 25 度から 30 度となっており、最新のニュースによると最近の吹雪によって 16,000 頭の家畜が死に至り、今後さらに多くの被害が起きるものと見込まれています。政府は災害評価と取りうることのできるプログラムの策定について、国連からのさらなる支援を要請しました。それに応えて OCHA は、UN-DMT の活動を支援するため、神戸にあるアジア地域災害対応アドバイザーのカン氏を 2000 年 12 月モンゴルに派遣しました。さらに、必要な救援の評価と国際援助の要請を行う準備として、1 月 8 日から約 2 週間の日程で UNDAC チームを派遣しています。

1 月 14 日、ヘリコプターの墜落によって災害調査にあっていた、OCHA の Ms. Sabine Matzner-Strack 氏 (第 2 回 ADRC 国際会議に出席) など国連関係者 4 名を含む 9 名が亡くなりました。犠牲者の方々のご冥福を心からお祈りいたします。

(12/18 OCHA Situation Report, 1/10 AFP など)

### □ 中央アメリカ大地震

1 月 13 日 11 時 33 分 (日本時間 14 日午前 2 時 33 分) マグニチュード 7.6 の地震が中米エルサルバドル沖で発生しました。少なくとも 609 名が亡くなり、首都の最も被害が大きかった地域を中心に 2,412 名が行方不明となっています。また 2 件の主要な病院の建物が損壊し、いくつかの主な高速道路が損傷しています。

(1/13 ~ 16 OCHA Situation Report)

### □ スリランカの熱帯性低気圧

2000 年 12 月 25 ~ 26 日にかけて、スリランカ北部を熱帯性低気圧が通過しました。この影響でスリランカでは 5 名が亡くなり、75,000 世帯が被害を受けたと報じられています。この低気圧は、漁船をはじめ、家屋、稲作地、家畜、電話や電気などのインフラを破壊しながら、スリランカのいくつかの地域に被害を及ぼしました。さらにこの熱帯性低気圧は、12 月 27 日にインド南部に上陸し、家屋、漁船、田畑やバナナ栽培に被害が出ましたが、インドでは死傷者は報告されていません。

(12/29 OCHA Situation Report)

ご意見・ご要望等があれば 右記までご連絡ください。	編集・発行： <b>Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)</b>
	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 1HDビル3F
	E-mail: <a href="mailto:editor@adrc.or.jp">editor@adrc.or.jp</a> TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347
	誌代・送料： 無料 / 毎月 2 回発行 (予定)